No.66
2022年 秋冬号

JCHO玉造病院広報誌

たまつくり Tamatsukuri Now ナウ

窓から宍道湖を臨み、広がる青空。
緑に恵まれた玉湯の丘で期待に応える病院を目指します。

手術支援ロボット(Mako)がテレビで紹介されました

◉ 最新医療レポート

患者さん一人一人に寄り添います

医療福祉相談室医療ソーシャルワーカー　高木　陽子

◉ 自宅―診療所―総合病院―高齢者施設へのかけ橋
◉ 災害医療を学んで
◉ 生活習慣病発症予防のために
◉ 当院の取り組みが評価され
国際骨粗鬆症財団(IOF)より金賞に認定されました
◉ 地域の栄養食事指導、始めました

Japan Community Health care Organization JCHO/ジェイコー
独立行政法人地域医療機能推進機構
玉造病院

最新医療レポート 34

患者さん一人一人に寄り添います

医療福祉相談室 医療ソーシャルワーカー　高木　陽子

病気やけがをすると普段では考えもしなかった心配事や不安が生じることがあります。医療福祉相談室では、患者さんやご家族が抱えるさまざまな問題について医療ソーシャルワーカーが解決のお手伝いをしています。その際、秘密は固く守りますのでご安心ください。

入院をすると当たり前に働く、買い物へ行く、家事をするなどの生活が途切れます。医療費の支払いや生活費に困るといった経済的な問題を抱えたり、一人暮らしの方は入院前のような生活に戻れるだろうか、高齢夫婦世帯では夫、あるいは妻を介護していた方が入院前のように介護ができるだろうか、などの不安を持たれたりします。病気やけがをすると、健康だからできていたことが立ち行かなくなることがあります。そこで私たち医療ソーシャルワーカーが存在しているのです。同じような状況の患者さんであっても、家族の関係性、事情、社会的背景はさまざまです。患者さんやご家族一人一人の話を伺うと、さまざまな悩みや不安を抱えておられることがわかります。受けるべき医療サービスを阻害する要因があればそれを探り、解決できるようにその方の自己決定を尊重し、援助を行っています。そして、患者さん、ご家族が自らの力で解決できるよう援助を行います。

退院準備の支援が必要な患者さんには、医師、看護師、リハビリ療法士、医療ソーシャルワーカーなど多職種で話し合い、検討を行っています。医療ソーシャルワーカーは入院初期から患者さん、ご家族の話を伺い、患者さんの大切に思っていらっしゃることや生活の視点から課題について検討し、チームで支援を行っています。

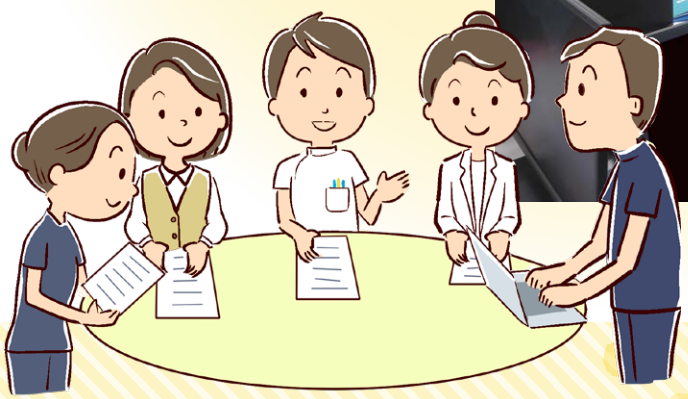
そして、私たち医療ソーシャルワーカーは、地域との連携が欠かせません。患者さん、ご家族が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようケアマネジャー、障がい相談支援専門員、地域包括支援センター、市役所、訪問看護ステーション、などあらゆる地域の方たちとプライバシーを厳守し、連携を取り合っています。退院後の支援担当の方に病院に来ていただき、退

院前の話し合いを行っています。入院中の様子をお知らせし、患者さんの気持ちを代弁するなど、退院後も安心して住み慣れた地域の中で暮らしていくために支援をさせていただいております。

入院中の方だけが対象ではなく、地域で困っている方、生活障がいを抱えた方が医療福祉相談室へ相談に来られたり、電話で相談されることもあります。地域の中の一医療機関の医療ソーシャルワーカーとしてお役に立てればと思っております。生活の中で不安がある方、お困りごとがある方は、どうぞ医療福祉相談室へお電話でご予約の上、相談にお越しください。

面談室で面接の様子

病棟でカンファレンスの様子



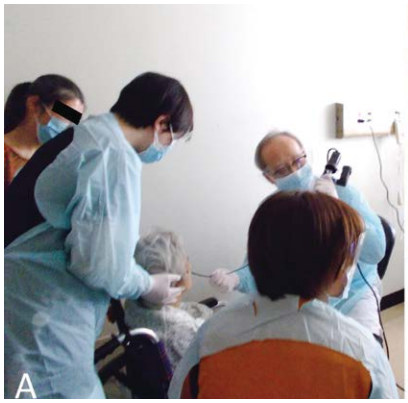
自宅―診療所―総合病院―高齢者施設へのかけ橋

副院長（内科）芦沢　信雄

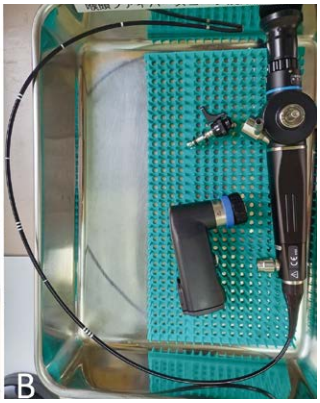
当院は数年前に厚労省から「再編・統合を含む病床機能見直しが必要な436の公立・公的病院」に挙げられました。内容的に問題のある公表ではありましたが，これを機会に当院の機能と地域における役割について見直し，周辺の医療施設や高齢者施設だけでなく行政・保健所などとの対外連携も重視して，院内多職種スタッフ（歯科医師，看護師，リハビリ療法士，薬剤師，検査技師，栄養士，医療ソーシャルワーカー）連携のもと下記のように多彩できめ細かな入院治療を行うよう努めております。

- **新型コロナウィルス感染症（専用病床：８床）：**当院発熱外来からの入院の他に，県の入院調整本部からの入院依頼，そして総合病院からの転院（後方支援）も受け入れています。
- **嚥下障害対策：**誤嚥性肺炎治療後，または他疾患で当院入院中に摂食・嚥下アンケート調査を行い問題がある場合には，リハビリの言語聴覚士と歯科医師による摂食・嚥下機能や口腔内衛生状態の評価，摂食・嚥下訓練，介護者に対しての口腔ケア･食事の形態･介助などの指導も行っています。鼻から挿入した喉頭ファイバースコープ観察下に試験食を経口摂取してもらい，安全な食事摂取についても評価しています（写真）。
- **他院整形外科手術後または脳卒中後の回復期リハビリ：**ほとんどが内科疾患を合併した高齢者であり，リハビリを行いながら内科疾患に対する治療についても内科医が食事療法の上で評価し，多職種スタッフの協力のもと栄養・生活指導や薬剤の調整などを行い，多職種スタッフ，家族，ケアマネジャーとともに退院後にも安全で快適な生活を送るためにはどうしたらよいかについて話し合い検討しています。
- **食欲不振や体調不良，体動困難などにより自宅での生活または介護困難：**点滴その他栄養補給，原因疾患の治療やリハビリを行い，多職種スタッフ，家族とともに退院後の医療・介護について相談・検討し，利用可能な介護サービスや施設入所などについても提案いたします。介護する家族側の問題で一時的に介護困難となった場合に，通常２週間程度のレスパイト（介護のひと休み）入院も可能です。
- **糖尿病コントロール：**退院後も継続可能な治療であることを前提に食事療法下にインスリン・その他薬剤の調製を行い，多職種スタッフによる栄養・服薬・生活の指導・教育を行っています。
- **在宅療養後方支援：**悪性腫瘍，寝たきりまたは胃瘻や膀胱カテーテルなど体内にチューブを留置されている状態で診療所からの往診を受けておられ，そのかかりつけ医から当院に対して情報提供と書類登録されている患者様については，急変時の緊急入院を24時間体制で受け入れます。

※以上の入院治療については，当院地域医療連携室（TEL：0852-62-1591）にご相談ください（入院のためには，かかりつけ医からの診療情報提供書が必要です）。



喉頭ファイバースコープを鼻から挿入している様子：画面右方向にモニターがあり，試験食を飲み込む時の咽頭・喉頭をモニターで確認している。



喉頭ファイバースコープ本体：挿入部外径は3.1mm

災害医療を学んで ～私と災害との出会い～

主任理学療法士 山﨑　和行

平成７年１月17日（火）午前５時46分。皆さんはどこで、何をしておられましたか。この日、阪神淡路大震災が起こりました。私は小学校３年生で、２段ベッドの上段で寝ていました。物凄い揺れで目が覚め、慌てて両親の部屋に行くとテレビが付いており、崩れた高速道路や、いたる所で火事が起きている神戸市が映っていた記憶があります。当時、よく遊びに行っていた親戚宅がありとても心配していました。春休みになり少しずつ往来可能となると、親戚の引っ越しを手伝う為に神戸へ。近くの小学校にブルーシートで作られた仮設のテントが無数に設営してあった事がとても衝撃的で今でもよく覚えています。それから私は“災害”に興味と危機感を持つようになりました。

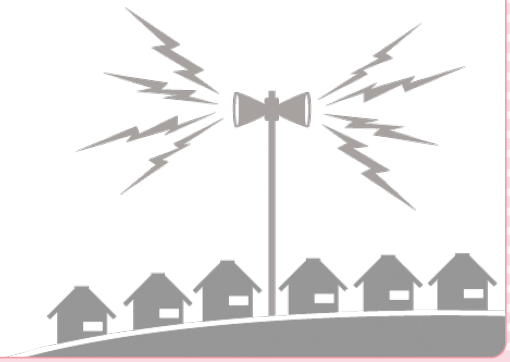
この夏、念願であった国際医療技術財団（JIMTEFジムテフ）主催の災害医療研修を受講することができました。研修内容は災害に関する基礎的な考え方から昨今の感染症対策をしながらどのように避難所生活を送り、その為の支援についてどう考えるかなど幅広く学ぶ事が出来ました。この度の研修で災害の怖さと日ごろから地域との連携を図り、防災・減災意識を高め、備える事が重要だと改めて知ることが出来ました。

この研修をきっかけに、現在では島根県理学療法士会で災害支援対策委員会として活動を始めました。そこでは皆さんが被災された際に役立つ情報がたくさん掲載されています。私も「災害とは」をテーマに動画を作成しました。

リハビリテーション専門職は災害時にも皆さんを支援します。是非作成したコンテンツをご覧いただき、少しでも皆さんの日常に「災害」を考え、防災・減災意識を高めていただけたらと思います。

【島根県理学療法士会ホームページ 災害関連情報】

災害に関する動画やお役立ちリーフレットを作成しています。
是非、左のQRコードからご覧ください！



生活習慣病発症予防のために

西4階病棟 特定行為研修修了看護師 廣澤　美奈子

私は生活習慣病の中でも主に糖尿病看護を主体とした研修に参加する機会が多く15年前より糖尿病重症化予防（フットケア）と医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・訓練士で構成した生活習慣病サポートチームの活動をしています。フットケアでは糖尿病など足病変ハイリスクの患者さんに対して、白癬、胼胝、陥入爪、皮膚潰瘍等の検査、治療を行い、併せて足の清潔・爪切り等足のセルフケア指導を行っています。またサポートチームでは症例検討や勉強会を通して最新の治療やケア方法の知識を深め、入院患者さんの療養指導に活かせるように多職種で協働しています。

今回、自身の専門性の向上を目的に特定行為研修を受講しました。今年の４月からは特定行為研修修了看護師として主に手術後の患者さんを中心に医師の手順書に沿った「インスリンの投与量の調整」を行っています。研修を受ける前は医師に１回１回血糖値を報告し、インスリン量の指示を受けていたのが、今では手順書をもとに自分の判断でインスリン量の調整ができるようになりました。しかし手術後の患者さんは疼痛、術後の発熱や食思不振により血糖値の変動が生じ、手順書通りにインスリン量を決定できないことがあります。そのときは医師に報告・連絡・相談をしながらインスリン量の調整を行っています。特定行為研修修了看護師として高度な実践能力を発揮し、より安全な入院環境の提供と糖尿病教育入院や院内ラウンドで横断的な活動をしていきたいと思います。

また現在、日本の成人４人に１人が糖尿病あるいはその予備軍といわれ、厚生労働省の2019年「国民健康・栄養調査」によると、「糖尿病が強く疑われる人」の割合は、男性19.7%、女性10.8%でした。当院でも手術前検査をきっかけに「糖尿病が強く疑われる人」と指摘されるケースがあります。「糖尿病が強く疑われる人」のほとんどが健康診断を受けても再検査をしない人、健康診断を受けない人でした。初期の糖尿病は自覚症状がないため気づきにくく、気づいた時には進行しています。それだけ自覚症状なく生活できる病気だからこそ、定期的な健康診断や早期からの治療開始がいかに重要であるかがわかります。定期的に健康診断を受ける人、治療で通院している人は前者よりも健康寿命が延長するといわれています。そのため私たちは超高齢社会に向け、健康寿命を延ばすための取り組みをしていかなければならなりません。今後はチーム医療のキーパーソンである看護師として、特定行為研修修了看護師として、多職種と協働しながら地域のみなさん、入院患者さんを対象に健康ミニ講座や生活習慣病教室で生活習慣病の発症・重症化予防のサポート的役割が果たせるように精進していきたいと思います。

糖尿病の初期症状

当院の取り組みが評価され国際骨粗鬆症財団（IOF）より金賞に認定されました

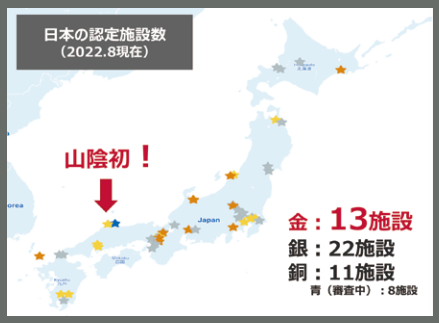
国際骨粗鬆症財団（IOF：International Osteoporosis Foundation）
国際的な骨粗しょう症治療、予防・啓蒙活動に取り組む財団

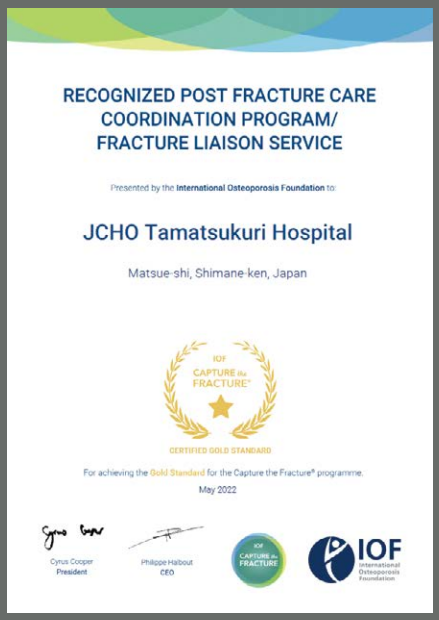
2022年５月13日に国際骨粗鬆症財団からCapture the Fracture®【金賞】に施設認定されました。

この認定制度は、国際骨粗鬆症財団が世界各国において脆弱性骨折の二次骨折（最初の骨折に続く２回目以降の骨折）予防に対する各施設の取り組みを国際的評価基準によって審査を行い、【金】【銀】【銅】にレベルを分けて認定を行うプロジェクトです。

当院は、2018年に骨粗しょう症･転倒予防チーム『TAMATSUKU RE:BONE』を立ち上げ、骨粗しょう症による高齢者の脆弱性骨折予防を行うため、多職種スタッフ（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師など）がそれぞれの専門性を発揮しながら骨粗しょう症リエゾンサービス（骨粗しょう症治療・再骨折予防・啓発）に力を入れて取り組んでまいりました。

2022年８月現在、日本国内でのGold認定施設は当院を合わせて13施設となっており、山陰地方初の金賞認定施設となりました。この金賞認定が我々のゴールではなく、骨粗しょう症治療と同様にコツコツと継続していく事が重要です。一人でも多くの患者さまの骨折を防ぎ、健康寿命を延伸させるためにも『ONE TEAM ～骨を折るのは私達～』をモットーに、今後も病院スタッフ一丸となって取り組んでいきたいと考えております。




RECOGNIZED POST FRACTURE CARE COORDINATION PROGRAM/ FRACTURE LIAISON SERVICE

Presented by the International Osteoporosis Foundation to:

JCHO Tamatsukuri Hospital

Matsue-shi, Shimane-ken, Japan

CERTIFIED GOLD STANDARD

For achieving the Gold Standard for the Capture the Fracture® programme.

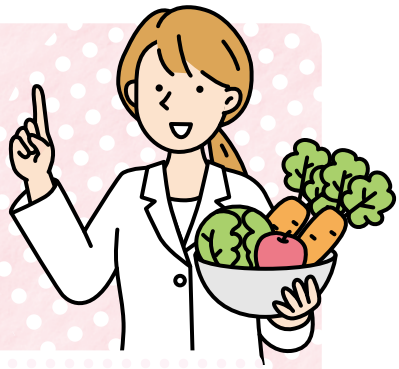
May 2022

Cyrus Cooper President

Philippe Halbout CEO

骨粗しょう症・転倒予防チーム
TAMATSUKU RE:BONE

地域の栄養食事指導、始めました



当院では、地域の方々への食生活を支援する取り組みとして、また医療連携の一環として、かかりつけ医の先生方からご依頼のあった患者さんに、個別の外来栄養食事指導を行っています。お気軽にご利用下さい。（予約制）

なお、指導を受けていただくには、かかりつけの先生からの依頼が必要となります。ご希望の患者さんは、かかりつけの先生へ外来栄養食事指導ご希望の旨をお伝えください。

受講日について

受　講　日	月曜日～金曜日（9：30～15：30）※祝祭日は除く
所要時間	30分程度

●問い合わせ先　TEL 0852-62-1591（地域医療連携室）

第7回JCHO地域医療総合医学会「JCHO学会」に参加して

総務企画課 赤田　和広

今回、10月21日から2日間、熊本城ホールで開催された第7回JCHO地域医療総合医学会（略して「JCHO学会」と呼びます）に参加させていただきました。

まずは、JCHO学会についてご紹介します。JCHO学会とは地域医療機能推進学会が主催で1年に1度開催される学会で、全国57病院の職員が一堂に会する規模の大きな催しです。近年はコロナの影響で開催が中止となっており、今回は実に3年ぶりの開催とのことです。

そんなJCHO学会では、報告をおこなう演者は医師や看護師などの医療職だけではなく多職種によって構成されており、報告される内容も医療にかかわることから経営改善や人材育成まで非常に幅広いものになっています。

私は「運営・経営」をテーマしたセッションに参加し、「文書管理体制の構築」をテーマに報告をおこないました。報告後は、先行して文書管理に取り組んでいる病院から質問をいただいたほか、座長からは示唆に富んだコメントをいただきました。その他の報告は、職員間のコミュニケーションを図るための取組みや考案した新たな病院経営指標についての考察等の報告が行われ、同様にフロアとの質疑応答も活発に行われていました。また、その他のセッションも聴講させていただきましたが、その報告の演者・内容の多様さから、改めて病院は多職種でなりたっているのだなと実感しました。

今回、JCHO学会に参加させていただき、他病院の職員と意見交換をする機会をいただいたことで、他院の職員が経営改善にあたって、どのような考え方で業務にあたっているか、その視点を学ぶことができました。普段は日々の業務をこなすだけで精一杯になり、改善的な視点をもって業務に取り組むことを意識できていませんでしたが、今回の他院の取組み等を参考に日々の業務に還元できるように取り組みたいと思います。

最後になりましたが、このような発表をする機会をいただいたこと、ご鞭撻いただいた共同演者の方々に深く御礼申し上げます。

理　念

私たちは心温まる医療を実践します。

基本方針

1．患者さんの立場に立った安心・安全な医療を行います。
2．医療人として責任を自覚し、高度で良質な医療を行います。
3．整形外科とリハビリテーションの基幹病院として、患者さんの身体機能の回復・維持、生活の質の改善を支援します。
4．地域の医療・介護・福祉機関と連携し、地域に根ざした医療の充実に努めます。
5．人材育成を進め、働きがいのある病院づくりに努めます。

患者様の権利

あなたは、人種・国籍・性別・年齢・宗教、その他の個人的な背景に拘らず、差別なしに適切な医療を受ける権利を持ちます。
あなたは、担当の医師や病院を自由に選択できる権利を持ち、またどの治療段階においても、他の医師の意見を求める権利を持ちます。
あなたは、すべての医療上の記録を知る権利を持ちます。また、医師から症状について十分な説明を受ける権利を持ち、自分自身に関わる治療方針を自由に決定できる権利を持ちます。
あなたのプライバシーと個人情報は完全に保護いたします。

《編集後記》

戦国屈指の粘り強い交渉人であり、信長、秀吉、家康を支えた名将・堀尾吉晴の生涯を描いた小説を読了しました。関ヶ原の戦いの後、月山富田城に入り松江城築城まで統治の拠点としたシーンがあり、早速ネットで検索「戦国大名尼子氏歴代が本城とし山陰・山陽制覇の拠点とした月山富田城は、その規模と難攻不落の城として戦国時代屈指の要害、悲運の武将・山中鹿介の出た城として有名」しかも車40分程で行ける場所とは！
あわてて快晴の月山富田城跡へ。七曲りの坂で膝が笑ったものの、頂上では絶景を堪能できました。
夜はもちろん日本酒月山を美味しく頂きました。

Japan Community Health care Organization JCHO（ジェイコー）
独立行政法人 地域医療機能推進機構
玉造病院
〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2
TEL.0852-62-1560

ホームページからたまつくりNOWがダウンロードできます。
https://tamatsukuri.jcho.go.jp

■編集・発行責任者　院長／池田　登　■広報／川合　準